



かわらばん! プログラム ①

オープニング

私たちが取り組む我が事・丸ごとを理解しよう!

平成30年2月3日(土)午前10時~12時
寺井地区公民館大ホールにおいて、町(内)会長や町会役員、民生委員児童委員、福祉推進員など113名が集い、今年度のテーマとして表している「我が事・丸ごと」の意義と、能美市における取組みについて学びました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

今年度は第2次能美市地域福祉活動計画の最終5年目として、30日間に亘る春まちぽかぽかプロジェクトを行います。オープニングにあたり、能美市社会福祉協議会会長及び、あたたかい地域づくりの会会長から挨拶があり、今年度のプログラムが始まりました。

まず、だれもが住み慣れた地域で、私らしくいきいきと安心・安全に暮らせるよう、地域のあたたかいつながりを深め、見守り・助け合える地域＝「地域共生社会」を実現するために、現在、厚生労働省が提唱し、能美市もモデル事業を受け進めている「我が事・丸ごと」(今年度のテーマ)の地域づくりについて、多くの市民が集い学びました。

◆【基調講演】「我が事・丸ごと」って? 助け合いの地域づくりが必要な理由

同志社大学社会学部 社会福祉学科 准教授 永田 祐氏

将来、単身世帯が増える現状を基に、これからの社会福祉の方向性として「我が事・丸ごと」地域共生社会のコンセプトを説明されました。「我が事」は住民の主体的な課題解決(他人事ではなく、我が事として取り組むこと)。「丸ごと」は専門職の包括的相談支援(専門職が丸ごと受け止めること)。だれもが「役割」「生きがい」を持ち暮らす地域づくりが肝要であり、決して地域への丸投げではなく、市民も専門職も行政等も皆で役割分担する「サッカー型」で進めることが必要だと示されました。

◆「これまでの歩みと現状、今後」として行政説明(能美市健康福祉部福祉課長補佐 南氏)と、社協説明(社会福祉法人能美市社会福祉協議会常務理事兼事務局次長 新川氏)があり、新しい取り組みを始めるのではなく、これまでの地域福祉委員会活動の拡充を目指すことについて、参加者は理解を深めました。

参加者の感想

- 野球型からサッカー型という言い方はイメージしやすかった。「我が事・丸ごと」地域・専門職・行政の協働、役割分担もわかりやすかった。
- 地域共生社会の重要性、新たな取り組みというより、今までの活動、能美市では地域福祉委員会活動をつなげていくという点が印象的だった。
- 地域の中での問題が複雑になる中で、寺井あんしん相談センターのような窓口が必要であるとわかった。



永田准教授からは、『能美市の取り組みが全国モデルだ』と激励があり、役割分担による地域づくりを学びました。





かわらばん! プログラム ②

市内のいろいろな困いごとに対する 助け合い活動を知ろう!

～みんな集合!
そこまで言って委員会?～

第2次能美市地域福祉活動計画支えあいのしくみづくり委員会

★大雪のため当初予定していました日程
(2/6)と会場を変更し、平成30年2月26日
(月) 19時30分～21時、ふれあいプラ
ザにて、生活支援にかかる活動団体や町(内)
会長や民生委員・児童委員などの市民42名
が集いま
した。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

第2次能美市地域福祉活動計画支えあいのしくみづくり委員会では、だれもが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、多様な支え合い・助け合い活動の拡充について協議してきました。今回は、日頃の委員会の中で話し合っている生活支援の助け合い活動の実態や思い、その悩みを多くの方に知ってもらおうと4団体が活動紹介しました。

- | | | |
|------------------------|----------|--|
| ① 認定NPO法人えんがわ代表 | 中田 八郎 氏 | |
| ② のみ商業協同組合役員 | 立花 秀人 氏 | |
| ③ コープいしかわ おたがいさま南加賀代表 | 加堂 由美子 氏 | |
| ④ 能美市ファミリー・サポート・センター会員 | 清水 奈津美 氏 | |

また、委員会での議論として、『地域には多様な問題を抱えた方(世帯)が多く存在することを知らなければいけない。そのためにも、助け合い活動の対象を高齢者だけとか、障がいのある方だけとか、子育ての支援だけと縦割りで考えず、何かつながれることはないか、できることはないかと考えてほしい』と報告し、参加者は自身の活動の立ち位置を確認した後、自身に出来ることはないか、こんな活動があったらよいのではないかと、市民同士ざっくばらんに話し合いました。今後の活動のヒントが得られたと語る活動団体もありました。

参加者の感想

- ・色々な方々で話し合い、自分達が必要なものを自分達で支える工夫が話し合えました。まだまだ必要なことがありますね。
- ・助け合い活動者の苦勞がわかって良かった(人手不足など)。利用者さんとのつながりの大事さで頼む方も頼まれる方も気持ち良くなる活動であって欲しいと思います。



喜多泉委員のコーディネートで和やかに意見交換。助け合いの手をつなぎ合いました。



かわらばん! プログラム ③

気づきからはじまる助け合い

～地域見守りネットワーク～

平成30年2月17日(土) 10時～12時
「寺井地区公民館2階大ホール」において、
市内の町(内)会長、民生委員・児童委員など58名が集い、地域での支えあい、助け合い活動について学び、話し合いがされました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

第2次能美市地域福祉活動計画 地域見守りネットワークづくり委員会では、地域における助け合い活動をテーマに協議を進めており、その報告の機会として標記研修会を開催しました。

- 事例報告・・・①老人クラブ活動での映画上映を活用した見守り活動をすすめる
北室 良人 氏(福岡町地域福祉委員会 福祉推進員・福岡町白寿会 会長)
- ②日頃の住民のつながりや見守り体制を活用した助け合い活動をすすめる
岩田 顯治 氏(佐野町地域福祉委員会 見守り委員会 委員・民生委員児童委員)
中野 啓子 氏()

事例報告後、コーディネーターの毎田 雄一 氏(キャリアデザイン オフィス・マイダ代表)の進行によって、参加者からの質問や意見交換を通して、それぞれの町の特徴に合わせた助け合い活動の進め方や町民への周知方法など、町ぐるみとしてすすめることが大切であることなどを学びました。

まとめ

意見交換では、今回の大雪による除雪作業の経験も含め、助けたり、助けられたりの「自助・互助」が大切であるとの意見が多くありました。また、現在ある集いの場「いきいきサロン」や「助け合い活動」をしていくためには、後継者の発掘が必須だという意見も上がりました。そのためにも町全体での福祉意識の醸成や、町のことを皆で話し合う機会を持つことが、日常生活支援のみならず災害時においても重要であると話し合われました。

参加者の感想

- ・各町会で見守りや助け合いの意識が高まってきていると感じました。
- ・先進事例にならって、今ある活動の内容を充実したものに、だれでも参加出来るような活動にしていきたい。
- ・組織が出来ても、継続していくことはむずかしいと思う。次の世代につなげる事が大変です。
- ・自分の町会でも出来る事を実行し、誰かがするのではなく、皆で考えていくことが大切だと思いました。



事例発表の岩田氏・北室氏



様々な活動を知り合うことが大切!みんなで話し合い、つながりを大切に助け合いを考えていきましょう!



昨年の事例発表者から助言も頂きました。



かわらばん! プログラム ④

“みんな”で“みんな”を考えるつどい ～心に障がいのある方の話を聴こう～

平成30年2月25日(日) 10時～12時
根上総合文化会館小ホールにおいて、「心に障
がいのある方の話を聴こう」をテーマに市民
61名が集い、話し合いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

第2次能美市地域福祉活動計画「ここに寄り添える人づくり委員会」が、障がいを理解する「人づくり講座」の3回目として実施しました。

社会福祉法人なごみの郷 能美地域活動センター「はまかぜ」で就労している2人の方が、「心に障がいがある生きづらさ」について、「はまかぜ」の職員の方と対話する形で、心の障がいになったきっかけから就労までの経緯を話されました。

Yさんは、怒りを抑えられなかったことやハイテンションになってしまうことでトラブルを起こしてしまうことの原因がわからず、辛い日々を過ごしていましたが、双極性2型（躁うつ病）と診断されたことで適切な治療を知ることができ、気持ちが楽になったそうです。また、Fさんは、学業の研究で無理をしすぎて辛くされ、心に支障が出てしまったとのことで、今思うと自分に病気の知識があればもっと早期に受診でき、治療ができたはずだったと言われました。

心に障がいのある方が、自分の体験談を人前で話すのは安易ではなく、一人でも多くの方に心の障がいになってしまったことの生きづらさを理解してほしいと話してくれました。

まとめ

心が辛くなる事は、誰にでも起こりうる事ですが、自分自身が精神障がいに対して正しい知識を得ることが、早期発見・早期治療に繋がると繰り返し言われました。苦しみを一人で抱え込まないで周囲の支援と理解を得ようという2人の願いを参加者は強く感じました。また、周囲の人々の障がいに対する理解が必要で、偏見や差別をなくし挨拶ができる関係づくりが大切だと参加者で話し合いました。

参加者の感想

- 当事者の方が語ってくれたことに感謝し、本人が今からしたいことを実現できるように手伝えたらいいと思った。
- 当事者の方のお話を聞く機会はありませんでしたので参考になった。
- 精神障がいに対する周囲の偏見が障がいある方に圧力をかけているので、理解していきたい。



お二人が話をしてくれたことで、参加者の意見交換が進みました。





かわらばん! プログラム 5

地域福祉のつとめ

前半 表彰式

能美たすかったわ～大賞等表彰式

平成30年3月4日(日) 13時30分～14時 寺井地区公民館において、能美たすかったわ～大賞、能美ほかほかフォトコンテストの表彰式及び、プルタブで換金した車いす贈呈式が行われました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

○能美たすかったわ～大賞(一般の部35通、小学生の部621通、計656通の応募がありました。)

一般の部	大賞	岩多里美様	(岩内町)
	優秀賞	森洋美様	(寺井町)
	//	小松照子様	(三道山町)
小学生の部	優秀賞	ラウトバルト様	(宮竹小4年)
	//	宮本鈴愛様	(辰口中央小4年)
	//	米田明日香様	(粟生小5年)
	//	酒野夢莉様	(寺井小4年)
	//	川崎美瑠様	(浜小4年)



表彰式の様子

大賞作品

「7カ月の娘と銭湯に行ったとき隣にいた方が声をかけてくれ、娘を見ていてくれました。お礼を言うと『わたしもよくこうして助けてもらったから』と。助け合いが根づいている地域性に心も身体もほかほかになりました」

○能美ほかほかフォトコンテスト (計21作品の応募がありました。)

最優秀	ほかほか賞	西井直江様	(石子町)	作品名「健康寿命のばすぞ～！」
優秀	あったか賞	伴場修正様	(岩内町)	作品名「おばあちゃんと一緒に!うれしいな」
	//	橋場規代様	(大浜町)	作品名「味噌おいしくなあれ」



「健康寿命のばすぞ～！」



「おばあちゃんと一緒に!うれしいな」



「味噌おいしくなあれ」

○車いす贈呈式(計2施設)

- ・デイサービスセンター笑楽部
- ・グループホーム金さん銀さん



贈呈された車いす



かわらばん! プログラム 5

地域福祉のつどい

後半のつどい

助け合いの地域づくりを紡いで次代へ!! <第2次計画のまとめ>

平成30年3月4日(日) 14時～15時30分
「能美たすかったわ～大賞」表彰式等に引き続き、計画にかかる委員や行政関係者、関心を持つ市民など133人が集い、第2次能美市地域福祉活動計画の(H25～H29)5年間の取組みが報告されました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

第2次能美市地域福祉活動計画（目標「私らしくいきいきと 安心・安全に幸せ感を持って暮らせる地域づくり」）を進める3委員会の委員長と、評価委員会委員長から報告されました。

①ここに寄り添える人づくり委員会委員長・・・栗山 よしみ委員長より

地域のだれもが心豊かに暮らせるよう(1次は認知症理解)2次は障がいについての理解を深める啓発講座を継続開催し、学びの機会や本人家族の思いが発信できる機会づくりを進めた。

②見守りネットワークづくり委員会委員長・・・吉田 良委員長より

地域のだれもが安心・安全に暮らせるよう見守りネットワーク体制の推進と充実をめざし、各町会に応じた見守りや生活支援の助け合い活動が進むよう事例紹介や啓発を進めた。

③支えあいのしくみづくり委員会委員長・・・青山 信久委員長より

子育て応援やボランティア・助け合い活動が進むよう、各センターの運営委員会や生活支援の助け合い活動団体・組織と連携をとり、情報発信や担い手層(団塊世代や男性)への啓発に取り組んだ。

④評価委員会委員長・・・高塚 亮三委員長 (H25～H29の年度評価における考え方)

地域福祉はまさにその地域における文化であり、文化土壌を作っていくことに他ならない。個人の成熟が必要であり、それが地域全体としての成熟につながっていく。地域の特性を生かし、だれもが持てる力を発揮し、地域貢献活動に参加し関わることで、支え合える地域づくりにつながる。

◆永田講師(同志社大学社会学部社会福祉学科准教授)からは、民間の行動計画「地域福祉活動計画」に基づいて、住民の「我が事」の意識が高まっている。行政の丸ごとの取り組みと、こうした住民の力が、力をあわせれば、より力強い「我が事・丸ごと」=[地域共生社会]を実現できる。「地域福祉活動計画」は、短期的に成果の出ない地域福祉の道しるべと捉え、一步一步着実に進めてほしいと話され、参加者は今後に向けての取り組みを確認することができました。

参加者の感想

- あたたかい地域づくりのために各委員会があり、沢山の委員の方で議論された5年間の取組みがよく理解できた。市全体が目標に向けて活動が進むよう強く希望する。
- 「我が事・丸ごと」というと一見難しそうに感じるが、2/3オープニングと、今日のプログラムに参加し、自分ができることをできる範囲であれば良いことがわかり、とても良かった。





かわらばん! プログラム ⑥

～避難所の運営をゲーム(HUG)を用いて考えてみよう～

能美市民防災ネットワーク研修会 小松・能美地域ボランティア連絡会合同開催

平成30年2月4日(日) 10時～12時 寺井地区公民館大ホールにおいて、避難所の運営について、紙面を使った疑似体験を行い、学びあいました。町(内)会長や防災士、民生委員児童委員など市民の方94名の方が参加されました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

本プログラムは、災害時に被災者が避難する「避難所」について、能登沖地震における避難所設営の経験者でもある、元社会福祉法人輪島市社会福祉協議会の七尾幸子氏の指導のもと、避難所の機能や運営を学びました。参加者は避難所運営ゲーム HUG(ハグ) [HUG という意味は H (hinanzyo 避難所)、U (unei 運営)、G (game ゲーム) の頭文字で、さらに英語で「抱きしめる」の訳] を用いて疑似体験しました。このゲームは、避難所運営を皆で考えるためのアプローチとして開発されたもので、避難所の運営に関して起こりうる様々な出来事を知り、要援護者への細かな配慮点を考え、判断する訓練ができました。

まとめ

この研修会を通して、参加者は、発災直後から避難所には、被災者が続々と避難されてくることから、的確でスピーディな判断力が必要であること、暫定期間とはいえ、大人数で生活するための留意点(プライバシーに配慮したスペースの確保・生活資材等の配布・日頃のコミュニティへの参加状態の把握など)を理解することができました。平成19年の能登半島地震を体験された講師の七尾氏からは、「助けられた人は助ける人になる」、「少しでも何かの役に立てると思うから」といった言葉が参加者の心に響きました。会場では熱い議論が飛び交い、大変に盛り上がりました。

参加者の感想

- ・災害は無いに越したことはないが、物心両面での備えが大切。
- ・被災者の立場、また、ボランティアの立場と、どちら側になっても、慌てずに行動するためにも、災害・防災知識が必要である。
- ・七尾氏の説明で、避難所の役割・機能が理解できた。
- ・避難所が出来た時には、地域(町(内)会)での協力や役割周知が必要だと感じた。・・・など



参加者の皆さんは、ゲームの中で、次々と来る避難者の事情を熱心に考え、「どうしたらよいか」と、意見を出し合っていました。

七尾氏は、「住民の皆さんの協力があって、避難所の運営が成り立つ」と、強く訴えられました。





かわらばん! プログラム 9

認知症カフェ「杜カフェ」で気軽におしゃべりませんか 認知症に関する相談もできます

平成30年2月7日(水)13時～15時
「ぐるーぷほーむ杜の郷」において、認知症について、気軽におしゃべりしたり、相談できるつどいの場「認知症カフェ」が開催され、大雪の中でしたが、施設利用者や職員も含め20名の方の参加がありました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

「認知症カフェ」は認知症の人やその家族、地域住民、介護や福祉の専門家などが、気軽集い、情報交換や相談ができる場所として全国的に取り組みが広がっています。「ぐるーぷほーむ杜の郷」では、地域密着型の福祉施設として、地域の方と一緒に、認知症の方やその家族をあたたく支援しようと平成29年春より「杜（もり）カフェ」の名称で毎月1回開催しています。

まとめ

◎当日は、あいにくの大雪のため市民の参加者は1名でしたが、施設利用者が参加され、ロコモ体操・お口体操を一緒に行いました。また、予定されていたお琴の演奏会は、積雪のため、お琴が持ち込めず中止となり残念でしたが、利用者の方と一緒にケーキとコーヒーをいただき、ゆったりとお話しの時間となりました。職員から、杜の郷の施設の概要や地域との交流の様子が紹介されました。「杜カフェ」は隔月で九谷町集会所でも行われているが、認知症についての相談はまだないということです。しかし、地域の方々が少しずつ足を運んで頂けるようになってきたり、反対に九谷町のいきいきサロンやお食事会に、ぐるーぷほーむの利用者が参加したりするなど、地域の方々との交流が深まっていることが紹介されました。認知症カフェと、地域との交流がさらに広がればよいと話し合いました。

参加者の感想

- ・認知症カフェのゆったりとした雰囲気が当事者や家族にとっても参加しやすい印象を持たた。
- ・春まちほかほかプロジェクトで、様々な地域の取り組みの中に、当事者や家族のを知る機会が入っていることが、これからの地域の認知症の理解のきっかけになると心強く感じた。



利用者と一緒に体操し、お茶を頂きました。





かわらばん! プログラム 10

子ども食堂で地域の人と人との 縁をつなぐ ~みんなで話そう~

2月 12日(月) 13時30分~15時 「辰口福祉会館」において、のみ子ども食堂の開催に関わった方や、地域の方など市民の方々が34名が集い、話し合いがされました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/1	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	2/1	2/2	2/3	2/4

内容

一般に子ども食堂とは、地域住民や自治体が主体となって無料または、低料金で子どもたちに食事を提供する子どもと地域の人たちが交流するコミュニティの場を指します。地域のみんなの食堂として、子どもも大人も、一緒にご飯を食べることで“つながれる場所”としても全国で広がっています。平成29年9月に、金沢市で「広がれ、こども食堂の輪! 全国ツアー」という集いが開催され、これをきっかけに、参加された市内の方が企画準備を重ね、同年12月22日(金)に辰口誓立寺において、能美市で初めての子ども食堂を開催されました。当日は、カレーライスと豚汁を200食分用意し、高校生以下は0円。大人は300円で提供した様子と開催までの経緯と活動紹介の後、のみ子ども食堂のこれからについて、グループで話し合いました。

まとめ

参加された方は子ども食堂にとっても興味を持たれ、グループワークでは、開催して良かった点や会場・食材の調達方法や、今後の課題などを話し合いました。誰もが集うことができ安心して過ごせる居場所作りを目指していこうと確認し合いました。

次回の、のみ子ども食堂は、平成30年3月23日(金)に辰口誓立寺において開催予定です。

参加者の感想

- それぞれの立場から、自由な発想で自由に話し合え、いろいろな意見を出し合え良かった。
- 子ども食堂は、いろいろな形があっという間! ということ。とにかくやってみる! と背中を押してもらった。
- 地域が、大人が子ども達を見守っているという事を子どもに感じて欲しい。
- 子ども食堂当日の写真の中に、明るい笑顔にあふれていた中学生が写っていて良かったです。



それぞれの想いが溢れました。

広がれ!!
子ども食堂♪♪





かわらばん! プログラム 11

お店やさんの認知症学習会 地域の見守り活動を考えよう

平成30年2月13日(火)19時30分~21時「ふれあいプラザ」において、のみ商業協同組合による「認知症学習会」を開催し、組合役員や市民23名が集いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

認知症に対する理解を深め、その対応の注意点などを学ぶ「認知症学習会」が開催されました。市内の認知症キャラバンメイトの協力を得て、店頭で起こりうる事例を基に認知症を理解する寸劇が行われて、その後に参加者が実際に体験したことをグループワークで話し合いました。今回の学習会では、特に店頭での対応や地域の見守りの一員として、温かく見守る応援者となるための学びを深めました。

まとめ

認知症キャラバンメイトからは、認知症を正しく理解することで、その人らしさに目を向けることが大切だという説明がありました。研修の中で、①驚かせない、②急がせない、③自尊心を傷つけないという認知症の方と向き合う際に必要な3つのポイントが示され、のみ商業協同組合の組合員からはこの3つのポイントを踏まえて、理解していきたいという声が上がりました。

参加者からは、「どのような機関に繋がたらいいのかわからない」や「どのように接客すればいいのかかわからない」という不安があるという意見があり、グループワークの中で、民生委員などに繋げていく事や支払いの際は財布を一緒に確認し、支払いをしやすいように配慮するなどのヒントが話し合われました。

参加者の感想

- ・認知症に対するむずかしさもさらに感じる時間になりました。もっと理解していく必要がある。
- ・寸劇は、自分の店で起こりうる事例と推測され、参考になり、自分であるならどうするかを考えたい。
- ・本人のつらさ、家族の受け入れのつらさがある。
- ・各商店の日頃の苦勞が分かった。
- ・地域の方が考えていることが分かった。



グループワークの様子



寸劇の様子



かわらばん! プログラム 12

身近な介護を通じた介護者の 思いを語り合いましょう! 「ほっとあんしんサロン」

平成30年2月14日(水) 午後1時30分～3時30分 ふれあいプラザにおいて、「能美市介護を考える会」会員が主催する「ほっとあんしんサロン」が開催され、介護経験者や介護OBの方9名が参加しました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

「能美市介護を考える会」の会員をスタッフとし、介護経験者や現在介護をされている方、介護に興味や関心のある方が集い、日頃の自身の生活のことや介護に対する思いを語り合いました。参加された方は、大雪の影響による久々の外出であり、「日頃の介護や雪かきの疲れからストレスが溜まってしまおう」、「近所の方とのつながりがないと大変」等の意見が出され、悩みや、自身の介護の方法などについて語り合いました。

「ほっとあんしんサロン」では、普段は、近所には話づらいことなどでも、お互いに同じ立場に立って気軽に話し合えることで、介護の不安解消につながったり、介護に対する自身の気持ちを切り替えられる機会となります。サロンで日頃感じている事、思いを話すことは自身だけではなく、介護に対する気持ちの共感や取り組み方の参考にもなり、お互いに理解し合う事にもつながります。さらに介護を前向きに捉えられることになり、健康を保つためにもよいことだと参加者同士で確認し合いました。

まとめ

今回、人と人とのつながりが介護をしていく上で、周囲の理解や、協力を得ることにつながる事を再認識しました。今後もサロンや地域の中で話しあえる場の大切さを確認し合いました。

参加者の感想

- ・日頃の思いをそれぞれ話し合い、大変参考になった。今回会員の方ばかりでしたが、皆で話し合いが出来て良かったかなと思う。
- ・介護について少し理解できたかなと思う。
- ・介護を長年されてきた方のお話をとても重く受け止めました。制度だけではない、人間としてのあたたかみのある対応が大切だと感じた。



お互いの思いを聞き合い、心のリフレッシュに繋がりました。



かわらばん! プログラム 13

地域で高齢者も子どもも一緒に 共生型サロンをめざして

平成30年2月15日(木)9時30分~13時30分「粟生コミュニティセンター」において、だれもが自由に参加できる「共生型」サロンとして、お子さん連れのママ達と地域の方々28名が集いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

お子さんやお孫さんと一緒に、気軽に遊びに来て、のんびりと過ごして頂く親子サロン。今回は、親子サロンの存在を地域の皆さんにも知ってもらい、大人も子どもも一緒にふれあい、交流を持つことの大切さを感じて頂けるように、地域の中の「共生型サロン」として、開催しました。会場となった粟生コミュニティセンターでは、地域の仲間として、高齢者や子育て中の方々等、参加者がおいしいお茶を飲みながら、おしゃべりをしたり、大型絵本の読み聞かせを楽しんだり、和やかなひと時を過ごしました。

まとめ

子ども達はいつも通り元気一杯に遊び、ママ達は、おばあちゃん世代と交流し、ひな人形の折り紙を習う中で、自然に会話がはずみ、いろいろな知恵を学びました。また、おばあちゃん達と子ども達がふれあうことで、互いに元気を与えあっているように、笑い声が響き、とても賑やかなサロンになりました。参加された皆さんは、誰もが参加できる「共生型」サロンの大切さを実感し、これからも、このような機会が増えたらよいと話していました。

参加者の感想

- いつもよりにぎやかでよかった。楽しかった。
- 親子で楽しそうで良かったです。地域に出られない親子がいたら教えてあげたいです。
- 絵本を読んでもらったが、一緒に遊ぶ時間がなかったので、あったら良かったです。親子サロンのような場がもっといっぱいあってほしいです。
- おじいちゃん、おばあちゃんと関わる時間がもっとあると子どもに良い気がします。



地域の方に大型絵本を
読んで頂きました!

みんな一緒に
おやつ時間です





かわらばん! プログラム 14

全国表彰された 移動販売同行体験ツアー

平成30年2月16日(金) 10時30分～13時、移動販売の現場に同行する体験ツアーに、関心のある市民6名が参加しました。市長も来られた寺畠町から、金剛寺町、佐野町とめぐり販売の様子を見学した後は、市商工女性まちづくり研究会会員9名とともに、生活支援の助け合い活動について意見交換しました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

買い物支援の助け合いとして「移動販売」活動に取り組む市商工女性まちづくり研究会が、活動7年目を迎える今年度は、実際の移動販売の様子を見学する同行体験ツアーとして、山間・国造地区である2町会、寺井地区の1町会をマイクロバスで訪問しました。

現地では

大雪による除雪作業で大変な思いをしている住民の方々が、公民館前や駐車スペースをきれいに除雪して待っていてくれました。3町会それぞれに、多くの方が待ちかねたように買い物に出て来られました。『雪で大変なところ、良く来てくれた。待ったわ、元気やったか』と、元気なおしゃべりがあちらこちらで聞かれ、移動販売車のまわりは、幾つもの輪ができました。また、いつもの顔が見られないと、『あの人はどうしたの、大丈夫?』と気遣う場面もあり、会員と利用する住民の方との信頼関係が出来ている様子を伺うことが出来ました。

話し合いでは

参加者はツアーの後、ふれあいプラザに戻り、日頃の活動紹介のDVD視聴後に研究会会員たちと今後の生活支援の必要性や、活動に取り組む思いを話し合いました。楽しく会話をしながら販売する姿に、決して販売だけが目的ではなく、地域の人々との交流を深めるふれあいの活動であることや、研究会会員にとっての生きがいになっていることを話し合いました。さらには、活動の趣旨に賛同する賛助会費を集める工夫や、返品できるよう市商工会加盟店の協力を得ていることなど、参加者は継続に向けた会員の熱い思いに関心しきりでした。

参加者の感想

- ・”百聞は一見にしかず”と実感しました。買い物と言うより地域でのふれあいだと感じた。
- ・売る方も買う方も生きがいになっていてすばらしい活動でした。皆さんのすばらしい笑顔がずっと続いていくと良いと思います。商品は新鮮で種類も多い。
- ・一番印象に残ったことは多くの方が移動販売の日を楽しみにしていたように見えました。元気がすごかった。
- ・一人暮らしのお年寄りの話し相手になったり、買った荷物を持って行ってあげたり、とても和やかで素敵でした。



買い物に来られた方とは旧知の間柄のような雰囲気、話をするのが双方の楽しみ! 互いに元気をやりとり!!





かわらばん! プログラム 15

福祉施設の地域連携地域連携 ～ボランティアが施設で活動する意味を考えよう～ 福祉施設研修

平成30年2月19日（月）午後1時30分～3時30分 ふれあいプラザにおいて、施設でボランティアの受入を担当している職員や、地域などでボランティア活動を行っている方16名が参加し、「福祉施設職員研修」が開催されました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

社会福祉法人制度改革の中で、福祉施設に対する公益性を発揮した地域貢献活動が義務化されており、その中の一つとして施設等にボランティアの受入を進め、地域住民との相互理解を深める事が求められています。今回の研修では、NPO かなざわ創造塾「鼎」（かなえ）理事長の山口敬士朗氏より、施設でのボランティアの受入の意義や相互連携の大切さについて理解を深めました。

ボランティア活動には大きく3つの要素があり、自発性⇒やる気、社会性⇒世直し、無償性⇒手弁当という考え方があり、ボランティアを受け入れる施設側として、ボランティアが施設での活動で達成感が得られる内容であるのか、活動の目的や方法について理解されているのかなど、施設とボランティアのしっかりした話合いが必要であることを学びました。また、話合いをすることで互いの関係性が深まり、地域に開かれた施設になっていくとの事でした。また、ボランティア受入の担当者だけでなく、施設の職員全体でのボランティアに対する姿勢を学び共有することが大切であり、施設としてのボランティア受入体制を整えていく必要があることを学びました。

まとめ

グループワークでは、ボランティアとのコミュニケーションの取り方や、ボランティアとの関わり方、困りごとや注意することなどについて話し合いました。参加した職員たちは新たなヒントを得られたようで、今後のボランティア受入の活性化につなげる意欲を高めました。また、地域の方との連携の重要性を理解できたとの声も上がりました。

参加者の感想

- ・地域への取り組み、関わり方を積極的に行っている施設を知ることが出来て良かったです。
- ・ボランティアに来る方、受け入れる方共に元気をもらおうよう、どちらも得する受け入れができるようにしたい。



山口氏のお話を聞き、お互いに笑顔で関わりあえる関係づくりについて熱く話し合いました。





かわらばん! プログラム 16

今、つながいを生かした助け合いがおもしろい!

<気軽に、楽しく>～職場OB、老人クラブ等の取り組みを紹介～

能美市生活支援サービス推進協議体

<地域包括ケアシステム連携会議 専門部会③支え合いの地域づくり>

平成30年2月20日(火) 19時30分～
21時、寺井地区公民館にて、町(内)会長や
役員、民生委員・児童委員など、市民64名が
集いました。また、協議体の委託元である能
美市長も来られ、人のつながりを生かした多
様な生活支援の活動があることを学びました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

能美市が現在進める地域包括ケアシステム構築体制の専門部会の1つとして設置された「能美市生活支援推進協議体」では、町(内)会長・民生委員児童委員・商工会・ボランティア・NPO法人等、多様な団体が、地域にある生活の困りごとに対して“住民が支え合う地域づくり”を目指し協議しています。

今回のテーマは、地域での活動を行うには<気軽に・楽しく>。何らかのつながりを生かして活動しているのではないか。趣味を活かす活動や、生活支援の助け合いに取り組む活動について、下記のグループが活動を紹介しました。(毎田雄一氏のコーディネートで進行)

- ①退職を機に仲間を集めて・・・NPO法人いきいきITクラブ(福井県坂井市：平成28年度内閣府の社会参加章受賞)
- ②職場OBの仲間を活かして・・・東レOB支援隊(市内緑が丘とOB会会員を対象にした生活支援活動)
- ③老人クラブの仲間を活かして・・・松が岡老人クラブ(市内松が岡(老人)クラブ会員を対象にした買い物支援活動)

①ITクラブは、20年も続く活動で会員数が500人を超え、パソコンを習うだけでなく今は「つどいの場」になっていること。東レOB支援隊や松が岡クラブの活動は始めて間がないが、地域にとって必要なことであり、喜ばれる声にやりがいを感じていること。それぞれに人のつながりを生かして、前向きにいきいきと活動されていることに参加者は、大いに刺激を受け、自分自身も何か出来ることはないかと話し合いました。

参加者の感想

- ・つながり方が異なる事例発表を聞いて、新しく何かを作ったり、つながり始めるのではなく、今あるつながりから広げていく方法もあるのだと気付かされた。
- ・自分が出来る事だけを協力したら良いという考えに感銘を受けた。まだまだ多くの活動グループが生まれる可能性を感じ、頼もしく感じた。



左から(ITクラブ)道見氏、(東レOB)仁地氏、(松が岡クラブ)安井氏から、実際の活動の動機や経緯、活動の工夫が語られました。



かわらばん! プログラム 17

話せることの安心感、聴く事の大切さ 「傾聴」を楽しく学ぼう!

平成30年2月21日(水)13時30分~15時
「寺井地区公民館」において、傾聴ボランティア
に関心のある方や能美市傾聴ボランティア連絡
会「うなづき」の皆さんなど23名が集い、傾聴
に関する講演が行われました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

一般財団法人メンタルケア協会より、指導精神対話士 坂尻 他津子氏を講師に招き、「話せることの安心感、聴く事の大切さ「傾聴」を楽しく学ぼう!」をテーマに研修を行いました。

まず、精神対話士として活動する坂尻氏が体験した事例を交え講演されました。「聴く」という文字には、耳で聴き、目で聴き、心で聴くという意味があり、「傾聴」とは、その字の通り、相手に向けてしっかりと心を傾けて聴くという意味合いが込められているとのことです。講演の後は、参加者がペアとなり辛かったこと、悲しかったことをお互いに話し合い、「傾聴」とはどのようなものなのか体験し、学びを深めました。

まとめ

「傾聴」には、感情を浄化させてくれる`カタルシス`という効果があります。これは、普段話す頻度の少ない高齢者が傾聴ボランティアに話を聴いてもらえる事で、ほっとして気持ちが軽くなることです。また、相手をほめることは相手を認めることになり、相手を思いやり、大事に思っているということを手伝いに伝えることにもなります。参加者は普段の挨拶をすることや感謝の言葉を伝えることで、細やかな思いやりであり、そのことが、「傾聴」の基本だということ学びました。

参加者の感想

- ・傾聴は日常生活にとっても大切だと思う。
- ・「聴く」と「聞く」の違いが分かった。
- ・聴いて受け止める、押しつけがましいアドバイスなどはしない、心に寄り添うことが大切だと分かった。
- ・お互いの事を話し合えてスッキリした。
- ・独居の方を訪問する時、研修の内容を思い出して対応したい。
- ・話の聴き方を学べた。



講演会の様子



ペアで「聴く」ことを体験しました。



かわらばん! プログラム 18

行政書士による特別講座

～成年後見制度を理解しよう～

平成30年2月22日(木)13時30分～15時30分 「ふれあいプラザ」において、関心のある市内の方々12名が行政書士無料特別講習会に参加されました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

市社会福祉協議会では、隔月で行政書士による特別講習会を実施しています。今回は、「成年後見制度がわかる講座」として石川県行政書士会小松支部の竹田朋匡氏に「いざという時のために成年後見制度活用法、任意後見人についてなど」をテーマに講演して頂きました。成年後見制度とは、認知症や知的障がいのように物事の判断能力が不十分な人を保護、支援することです。未成年における「親権者」の大人バージョンと考えるとわかりやすいとのこと。後見人に選任される人は、弁護士、司法書士、行政書士、社会福祉士などの専門職が7割、身内の方が3割と、専門職にお願いすることが多いようです。次に、任意後見制度とは、判断能力がしっかりしている間に「認知症になった時には、この人に世話をしてほしい」という理由で契約によって前もって後見人になる人を決めておく制度です。

まとめ

成年後見制度は万能ではなく、デメリットも存在します。現在の日本の法律は、個人主義に基づいており、家族単位の利益がほとんど考えられていません。例えば、相続税対策のために生きている間に子どもに贈与しようとしてしまうことがあります。後見ではこのような行動は出来ないことなど、必要な知識であることを学びました。

参加者の感想

- ・初めて参加しましたが、法定後見人と任意後見人があり、違いも分かりやすく説明してもらいました。ケースもわかりやすかったです。
- ・任意後見制度、資格(専門職)でなくてもなれることがわかりよかった。
- ・成年後見制度の良いところだけ知られていたが、デメリット考えなければならぬ点もある事がわかった。

石川県行政書士会小松支部
竹田朋匡氏



成年後見制度について説明を受ける参加者のみなさん



かわらばん! プログラム 19

障がいのある人や家族に寄り添う ことができる地域づくりに向けて ～当事者の思いからみんなで考える～

平成30年2月23日(金) 13時30分～
15時「ふれあいプラザ」において、民生委員・
児童委員、福祉推進員、ボランティアなど市民5
6名が集い、障がいについて理解を深め、話し合
いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

平成28年4月1日より障害者差別解消法が施行されたことに伴い、障がいのある人も、ない人も、分け隔てることなく、互いを尊重し合う「共生の地域づくり」を考える機会としました。障がいのある方とその家族の方と担当の相談支援員から、日々の暮らしにおける思いが語られました。

障がいのある方からは、自立に向けての努力と、家族と離れることからくる気持ちの浮き沈みや、これからはいじめの連鎖を断ち切り、みんなで助け合っていく社会（未来）を願うこと。家族からは、心配は尽きないが将来に向けて自立すること、そのためにも本人が思ったことが出来る環境の整備や地域の理解が必要だと話されました。

相談支援専門員からは、障がいのある方の思い（夢・希望）を大切に、本人や家族の希望に沿った生活全般のサービスの提案もしていきたいと話され、その後、参加者同士が、「感じたこと思ったこと」を話し合いました。

まとめ

目に見える障がいについては配慮することはできますが、目に見えない知的・精神障害等については配慮することが難しいです。参加者は障がいを抱えている方の話を聴くことで気持ちを理解し、当事者やその家族へ寄り添うことの意識を持ち、地域の皆で考えていくことが何よりも大切であると理解を深めました。

参加者の感想

- 当事者の気持ちに寄り添う事が大切である事が分かりました。
- こころの病を持っている人たちの考え方を理解するよう努力して、少しでも力になれるように、もう一度町の人達と考えてみたいと思いました。
- 障がいの有無に関係なく、親子の愛・絆に感動しました。
- 自分でも気づかないうちに差別をしてしまっているかもしれないので、気をつけたいと思いました。



障がいについて理解しあうことの大切さを確認し合いました。



かわらばん! プログラム 20

「ようこそ のみんひろばへ! パート 11」 ～お茶と絵本でくつろぎタイム～

平成 30 年 2 月 24 日 (土) 10 時～14 時「ふれあいプラザ」において、子育て中の親子、祖父母、そして市民の方々など 113 名が集いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

親子が地域の中で気軽に集える場の一つとして行っている『のみんひろば』は、11回目となりました。今回も、これまでも同じく、絵本コーナーやカフェコーナー、親子がくつろげるフリースペースを設けました。

カフェコーナーでは、地元九谷作家のカップを選び、「能美美育ネットワーク」の方が淹れてくれる、コーヒーやハーブティー、「NPO法人 シオン・サフラン」のクッキーを味わいました。気に入ったカップでのコーヒーの味は格別で、おしゃべりにも花が咲きました。

市立図書館の協力による絵本コーナーでは、たくさんの絵本や布絵本が大好評で、あちらこちらで、親子一緒に本を読む微笑ましい姿が見られました。「能美シビックウインドオーケストラ」の演奏では、子ども達が良く知っている曲も演奏され、体を動かしてリズムをとり楽しみました。

また、「もりもっちゃん」の紙芝居では、親子とも真剣に見入っていました。お昼には「護美ワーキンググループ」の手作りおにぎりのプレゼントがあり、子ども達は大喜び。親子一緒にお昼を食べながら色々な方と交流し、おしゃべりを楽しんでいました。

まとめ

親子はもちろん、市民の方も沢山参加され、和やかな雰囲気、誰もが気軽に集える場の心地よさを、身近に感じていただくことが出来ました。

参加者の感想

- ・日頃は、絵本はあまり好きではない子どもが、興味をもった絵本があったので良かった。
- ・初めて、生バンドの演奏を聴かせて頂き、子どもが、真剣な表情で聴き入っていたので、このような生の演奏に触れられる機会を与えて頂き、とても良かった。
- ・久しぶりに絵本カフェに遊びに来ました。子ども達やママ達の笑顔が良いなーと思いました。九谷焼のカップも良いな。



素敵な生演奏でした♪



紙芝居に夢中です。





かわらばん! プログラム 21

喫茶あい・テラス

平成30年 2月 24日(土)10時~14時
「ふれあいプラザ」2階において、能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会が行う「喫茶あい・テラス」が開催されました。ボランティア活動者や家族連れの方々など112名が来られました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

ボラセン（能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センターの略）をもっと知って頂くために、誰もが気軽に集い、話し合える場として「喫茶あい・テラス」を開催しました。さらに、同会場1階では、「のみんひろば」が行われ、その参加者も立ち寄っていました。ボラセンの活動を子育て世代にも知ってもらい、ボランティアを身近に感じてもらうことを目的としております。

喫茶コーナーでは、コーヒーを飲みながら雑談したり、多くの方がパンや手工芸品などを買い求め、ゆったりとおしゃべりを楽しみました。

★ボランティア体験コーナー・・・「能美美育ネットワーク」によるかんたんクラフトの花器作りには、子ども達がいっぱい!!

★福祉施設等による喫茶コーナー・・・NPO 作業所連合「一歩」による100円コーヒーやゆずジュース、スイーツ、小物の販売や、「うめの木学園」によるパンの販売、「NPO 法人シオン サフラン」のケーキ等の販売、介護老人保健施設「陽翠の里」の方が手作りした鍋しき、ぞうきん、コースター等の販売もありました。



まとめ

「ボラセンはここ?」「ホームページはあるの?」など関心を示される方も多く、いきいきサロンにボランティアを紹介して欲しいと言われる方が情報を探したり、ボラセンに相談されたりしました。

参加者の感想

- かわいい花器作りができて、色々な人に関わって良かった。
- 子どもが参加できるものがあり、たのしそうで良かった。
- スタッフの方がやさしく声かけをしてくれた。
- ボランティアの皆さんと関わることが出来た。「ボラセン」を初めて知れたので、今後ボランティアをもっと知りたいと思った。



販売コーナーの様子



体験コーナーの様子



かわらばん！ プログラム 22

集まれボランティア！ 「地域に広がるボランティア活動！！」 能美市ボランティア連絡協議会研修会

平成30年2月24日（土）午後2時00分～3時30分 ふれあいプラザにおいて、能美市ボランティア連絡協議会会員や、町会役員、ボランティア活動に関心を持つ市民55名が参加し、「市ボランティア連絡協議会研修会」を実施しました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25

内容

市ボランティア連絡協議会では毎年研修会を行っており、今回の研修会では、障がいのある方との関わりについて考えようと、株式会社ブルメリアハート代表取締役の兼氏浩子氏を迎え、「心のバリアフリーを目指して」をテーマに講演して頂きました。

兼氏は、16年前に病気のため車いす生活となり、その当時は現実を受け止められずにいたという事です。しかし、多くの方に支えられ、「障がいは特別なことではない、自分は自分である」という事に気づき、現在では、多世代型交流施設「木のおうち」の創設や、ボランティア活動を精力的に行っているとのことでした。

バリアフリー化や、障がいのある方のための制度や環境などは整ってはいますが、それだけではなく心のバリアフリーとして「ゆずり愛」、「たすけ愛」、「ささえ愛」の3つを大切に、皆が思いやりを持つ地域づくりが大切だと話されました。ちょっと声をかけてもらえることで障がいのある方は安心できることや、障がいの有無に関わらず、互いに笑顔でつながれる「笑顔の架け橋」を作っていくことを望んでいると強く話されました。

まとめ

「声をかけていいか迷う」、「声をかけて気を悪くされたらどうしよう」という思う方が多いようですが、お話をきき、当事者の心に寄り添い、物事を考える事の必要性を学び、一声かけあうことが大切であり、「地域のお節介さん」が沢山いることが、誰もが助けてほしいといえる地域づくりになるという意見が多く聞かれました。

参加者の感想

- ・「何かお手伝いできることはありますか」と勇気を出して言えるようになりたいと思いました。
- ・車いすで体験されたことを話して下さって本当わかりやすかった。これからのボランティア活動の参考になりました。
- ・体験から生まれた言葉の数々、感動しました。



兼氏の体験談を聞き、グループワークで感じた事などを熱く話し合いました。





かわらばん！

プログラム

23

児童の福祉体験発表を聞こう！ ～保護者も市民も一緒に～

平成30年2月27日（火）午前10時30分～12時 寺井小学校において、保護者や市民、学習に関わったボランティアや地域などでボランティア活動を行っている方など35名が集い4年生の福祉体験の発表会がありました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

能美市内の全小・中学校は、福祉協力校として福祉教育に関する学習やボランティア体験等について積極的に取り組んでいます。今回は、寺井小学校4年生が取り組んできた福祉体験や、学習をまとめ、保護者や地域の方に聞いてもらおうと発表会を行いました。

発表会では、聴覚や視覚に障がいのある方のための制度についてや、介護職員が行っている利用者の方のQOL（人としての生活の質の向上）についての技法や、点字ブロック、町で見かける様々なマークのことなど、それぞれが興味を持ったことを劇やクイズ形式等の工夫を取り入れ、参加した保護者に聞いてもらいました。参加した方々は、児童達の発表に真剣に耳を傾け、保護者やボランティアの方からは、「普段何気なく目にしているマークにも、色々な意味があることを知る機会となった」、「児童が福祉について学習する事は大切なことであり、児童だけでなく、自分達も一緒になって話し、考えていきたい」という意見が多く聞かれました。

まとめ

児童にとっては、今回の学習を通して、「みんなが暮らしやすい能美市にするために、自分ができることをしていきたい」との思いをしっかりと自覚する機会となりました。又参加者は児童の発表によって、初めて意識したことや理解したことが多くあり、福祉について学びを深める機会となったようでした。児童が学習したことを地域に発信する事は、地域への福祉教育の啓発になり、今後の福祉教育の広がりにつながるとの感想が聞かれました。

参加者の感想

- ・児童が自分以外のいろいろな人がいる事が分かって、これからの学びに役立てていけるといいと思いました。
- ・自分も分からない事や間違っていて覚えていたこともあり、児童の発表はとても参考になりました。
- ・よく調べてあると思います。児童の時から福祉に関する事に関心を持つのは良いと思います。



児童の真剣な発表に、参加された方は福祉の大切さについて学びを深めました。



かわらばん! プログラム 24

「保健・医療・介護連携」の活動報告

～専門職と市民の皆さんと一緒に考えませんか～

地域包括ケアシステム連携会議 専門部会①②

平成30年2月28日(水) 19時～21時辰口
福祉会館交流ホールにおいて、医師をはじめと
する医療・介護・保健関係者、地域福祉活動者等、
183名が集いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

能美市では疾病を抱えていても住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、医療と介護の連携活動や保健と医療の連携による糖尿病をはじめとする生活習慣病予防の取り組みが進められています。取り組み方策として、地域包括ケアの推進に向けた「連携」について、活動報告を通じて関係専門職が知り合う事を目的に開催されました。

1. メモリーケア・ネットワーク能美からの活動報告

- ① 病院と在宅医療の連携「自宅で最期を迎える方法」 事例を通して、住み慣れた自宅で家族に看取られ穏やかな死を迎えるための緩和ケアの提供により、本人、家族の安楽・安心につながったことや、自宅で受けられる医療介護サービス利用の体制づくりが報告されました。
- ② 医療・介護と地域を繋ぐ「地域ケア会議とは」 各種医療機関・専門機関による、送り手（病院側）と受け手（在宅支援側）の顔の見える連携として、病院からの退院に向けての地域ケア会議を開催した事例が報告されました。
- ③ 生活を支える「認知症初期集中支援チームの活動」 事例を通して、認知症状がある方でも住み慣れた地域で安心して生活ができる体制づくりについて報告されました。

2. 市健康推進課より【かけはしネットワーク能美・医療と保険の連携】

糖尿病の重症化の防止や、糖尿病の診療連携体制づくり「かけはしチェック」のあることについて報告されました。

※「かけはしチェック」とは、専門医療機関に1回（約半日）受診し、合併症の検査や栄養指導・療養指導をまとめて受けられる制度です。

まとめ

参加された医師、薬剤師、ケアマネジャー等、各種専門職や民生委員・児童委員、ボランティア、住民など地域における今後の連携が更に進むよう、相互理解の必要性を理解し、それぞれが出来る事を考えて行こうと話しました。

参加者の感想

- ・看取りについて半数以上の方が在宅での看取りを希望されていることについて、従事者として力になりたいと感じました。
- ・地域ケア会議についてよくわかった。専門職のチームと地域福祉委員などの繋がり、その役割分担と可能性を具体的にイメージ出来た気がしました。
- ・介護職、医療職など多職種の方と意見交換ができ、大変有意義な時間を過ごせました。色々なテーマがありましたが「地域の繋がり」が大切だなと思いました。



活発な意見交換が行われ、情報の共有や連携の大切さを学びました。



動
報
告



かわらばん! プログラム 25

住民主体通所「ほがらか会」活動と、 住民主体訪問「ライフサポーター」活動 生活支援の活動を通じた思いを語り合おう!

平成30年3月1日(木) 13時~14時30分
「老人福祉センター白寿会館」において、住民主体のたすけあい活動を行っている「ほがらか会」と「えがお会」の会員や関心のある市民27名が集いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

能美市では、新総合事業として、住民主体の通所・訪問事業が事業化され動いています。その、通所型である「ほがらか会」は、市民提案型協働事業としてボランティアグループが運営し、『ストップ! 要介護』を合言葉に、根上・寺井・辰口の3会場ごとに週1回ずつ、少し閉じこもり気味の高齢者の方々を対象に介護予防の機会としてミニデイサービスを行っています。

また、訪問型の生活支援サービスを担う「えがお会」は、「たすけあい・ライフサポーター活動支援講座」の修了生が立ち上げたグループで、利用者宅を訪問し「支援計画」に則り、家事支援を行っています。

今回は、根上会場の「ほがらか会」活動を見学し、住民同士の生活支援の活動を行うことの思いをざっくばらんに話合いました。

まとめ

住民同士の助け合いを体験できるゲームでは、助ける事も大切ですが、自分から助けてと声を出す大切さを学び、活動の中で高齢者の方の「助けて」の声を拾い、住民だからできるやさしくやわらかい活動を続けていきたいと話合いました。

参加者の感想

- ・「ほがらか会」のいろいろなことを今後の参考にして、地元でも何か役に立つことが出来ればと思いました。
- ・年老いても楽しめる会を見つけた。
- ・皆さんの言われたことがとても良く、みんな勉強になり今後の糧になる。
- ・住民主体の取組が良く理解できた。お互いに助け合いことが大切だと思う。



助け上手・助けられ上手
あなたはどっちでした?





かわらばん! プログラム 26

子どもは宝物 ～ わらべうたを楽しもう～

平成 30 年3月2日(金) 10 時～12 時
岩内コミュニティーセンターにおいて、子
育て中の親子や、子育てに関心のある市民
27 名が集いました。

月	火	水	木	金	土	日
					2/3	2/4
2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11
2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4

内容

人と人とがつながり合う地域の温もりの中で、子ども達が健全に育つための支援活動している「のみ♡子育てネットワーク」の主催により、地域に伝承されている「わらべうた」を先輩お母さん達が参加者に伝えるという集いが開催され、沢山の親子が楽しみました。

- ・参加者全員で手をつないで輪になり「あんたがたどこさ」の唄にあわせて、左へ右へ、リズムよくジャンプし、体を動かして楽しみました。
- ・「茶摘み」では、子ども達がお母さんの膝に座り、二人一組で向かい合わせになり、手遊びをしました。地域によって手遊びの内容が違い、いろいろなパターンがあることも教えて頂きました。
- ・昔懐かしい「ずいずいずっこころばし」は、四人ほどのグループに分かれ、お母さんたちが軽く握って作った拳の穴に、♪ずいずいずっこころばし、ごまみそずい♪と軽快な唄に合わせ、テンポよく小さな指を順に入れていました。
- ・「ねんねんころり」などの子守歌を聴く時間では、それまで、はしゃいでいた子ども達も、お母さんの膝の上に抱っこされ、優しい子守歌を静かに聴いていました。

わらべ歌を楽しんだ後は、お茶を飲みながら、ゆっくりとおしゃべりをして過ごしました。最後に、バルーンアートのプレゼントもあり、子ども達は大喜びでした。

まとめ

大人たち誰もが子どもの頃に聞きなじみ、温もりと懐かしさを感じる「わらべうた」を世代を超えて一緒に唄い、昔遊びを学ぶ時間はとても大切で、遊びの中で子ども達の心がより豊かなものになればよいと話合いました。

参加者の感想

- ・ほっこりとした雰囲気の中で、「わらべうた」を楽しむことができて良かったです。参加させて頂き、ありがとうございました。
- ・子ども達が、「わらべうた」に合わせて体を動かして、全身で楽しんでいるのが可愛かった。
- ・あまり、こんな機会がなかったので楽しかった。



ずいずい
ずっこころばし♪



ほっこり ティータイム